

ミスター・Kの英語教育ワンポイント指導ヒント

千葉県旭市教育委員会外国語教育アドバイザー
千葉大学 教育学部 学校教員養成課程
東京女子大学 現代教養学部 国際英語科 非常勤講師
加瀬 政美

【第7号】 小・中学校向けバージョン

★小学校外国語科（5・6年生）の目標、「コミュニケーションを図る基礎」とは、いったいどのようなもので、それをどう中学校に接続していくのか！？

小学校の目標の（2）小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 外国語活動・外国語編（p.71）には次のように書かれています。

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ**外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら**読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。

注目は、「**外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら**」です。「推測しながら読む」とは、何度も聞いたり話したりしてその音声を十分に慣れ親しんだ単語が文字のみで提示された場合、その単語の読み方を推測して読むことを表しています。つまり、考えさせる時間を十分にとり「推測する力」を養成することが大切で、その力を中学につなげるという指導者の見通しのある意識が重要になります。外国語である英語において、知らない言葉の数をゼロにするなんて無理な話です。

キーポイント → **言葉の意味を推測できる力をつけること！**

例)

先輩上司から、「この企画書だと、コストが上振（ウワブ）れてしまう。」と言われた。この「上振れる」は人生で初めて聞いた言葉だが、「上に振れる」と言うのが想像でき、多分コストが上がることだろうと推測できた。このように、日本人なら、会話の中の言葉、また書き言葉で文字を見て、読み方や意味がわからなくても、頭の中で調整している。

ここで、上司に、「上振れるって何ですか？」なんて質問しないですよね。質問したら、会話の流れを遮ってしまいます。「きっとこんな意味だろう。」と繰り返していく過程で言語習得していくものではないでしょうか。字面や文脈などから意味を推測することができます。換言して言えば、「言葉（語彙）を「知っているか、知らないか」ではなくて、「分かるか、分からないか」という観点で捉えることが大事だと思います。「知らない単語」イコール「分からない単語」にならないように伸び代の大きい子どもを育てたいものです。

★推測できる力があるかどうかで、英語の理解力に大きな差がでる。小学校から中学校の発達段階で、このことがコミュニケーションを図る基礎になるというものです。